



口は福を...

...

...

...

...

...

天職の事

天能民を治る事不能故に大君を立る治る  
も大君獨治る事不能諸侯と立る治る  
諸侯の民と治る大君の命あり天命也  
治る職ハ天の職なり治る民ハ天の民  
其徳天職を堪ふる有され難  
私智を用く天民を...  
其子孫あり...  
法は...

其人の徳は天の寛仁を新  
大君の御徳は是祖考の餘光を  
やいへば皆恩の君は祖考の餘光を  
羊人の上に居る位祿を請ふ才徳天爵  
一とて怒るべき也

徳と徳と徳と事

徳は直心を行ふと儀やあつらん直心天理  
請は天理を立揚る徳と徳といふ徳と徳と  
徳は立揚る後心と徳といふ徳と徳と  
上上の徳明らかなる運活國平天下の期せむ  
左にんく其徳いふ

聖賢の書とてまを文に立揚るを有  
唯詩文は死に實用と不勤高遠に求む近  
と知るは徳腐儒の徳とていふは  
其徳の余り臣民の服従をりる  
此辰より草の吹凡に廉く如く先  
く用ひたれぬ如く何やて者

學問の度

可讀書は五經の教大學初儀又ハ  
日本記史記通鑑と合せむ  
義外書大學或問新助雜話の教又讀  
所尚家の書は書又ハ讀

のふかき唯そ安をいふや

下情の事

天地の別 君臣の位あり 矢氣地を温く 地を  
天を扶く やんま 君臣交泰 國を  
と安く 治る 地を離れ 草木と生を以て 天  
と畜後 草木と育む 君臣否塞  
國家れあり 治る 期有る 臣ハ下ありて  
君ハ上ありて 尊き事 天のとき 臣ハ下ありて  
甲さる 地のぬり 取るとの つら 隔絶して上  
下れ 情を不通 今世ハ下のさる 下は  
賤し 上は貴し 上聽を汚す 下は  
社歎る 下情ハ下の人の情 人情ハ  
上と下との違ひ 下をれ 夏水と氷をみる 火  
を取るの心より 安を思ひ 邊を寸ん ぬり  
けるハ 通情也 下をみる 我ぬり 何と下  
情の志れ 志る 志子の物 情と心 父  
母の情也 下を思ふ 心 誅たる 下情ハ 誅  
人を家ぬ 思ふ 心の 下情ハ 誅  
か 上と下とのやを 釋し 上の字を 後  
と下の字を 成る 下のやを かつまは 又上の字を  
下と下の間の 其情を 通するを 以  
て 中の字ハ 上下貫る 社有る



らくと清く一花の清月一海のしるはるる  
見ゆる影ひとも云はれどお人し候はるる  
の心かく任せぬ欺るるべし欺るるべし  
人乃才朽ぬべし

政乃変

政とハ正と書て正ハ天理自然の道なり別  
質しとて志とちやまふ多と加つて見ると成  
政とては命一其政を施すに寛徳の時を  
至る極有度す之寛徳物かと異なりしと  
同く世と恵むの仁ありあはれは秋  
の肅殺と仁の肅殺あり春を得て發生し

生一不止と云ふまはひと かなる時を極む位  
と云ふはふと安んじ此ころといふ風と上るを以  
破らへ江戸とては春と時と一其困くま  
時と云ふは春と時と云ふは風と得られ  
あつて江都とては春と時と一其困くま  
したる其風の吹を待たし上るは其勢ひを待た  
せし時と極むと云ふは木立成りし時と云ふは  
あつては春と時と云ふは春と時と云ふは  
一其風と時と云ふは九天へも通るべし  
登壇と位と云ふは風と時と云ふは持たし  
と云ふは不能なる人とは候も其れは随ひて







利を啓人の罪なりと云ふは、大徳の徳に  
は義利と辨し、孟子の始めよ、義利と辨せ  
る利の不利と云ふは、利の利と云ふは、  
ハカク

其外書志る一なるあれ、事長は  
形一ぬ知る、ゆぢり、行やま、か、し、よ、ま、  
書一は人の口ま、ひ、也、曾、く、行、ひ、ゆ、  
ゆ、か、あ、同志の法、方、く、や、切、咎、琢、磨、  
して、仁、を、助、く、つ、心、事、や、あ、事、を、し、ら、せ、  
て、

天明戊申歲寫

合於右語次○衛人逆公子晉奔邢義減親之說○  
出在邢衛人迎而立之○邢音刑○

**經五年癸亥**春公矢魚于棠書陳魚以示○

夏四月葬衛桓公○秋衛師入郟郟師小國稱

師成○郟○九月考仲子之宮仲子桓母也隱

母為夫人諸侯無二嫡既以孟初獻六羽以

子為夫人故為仲子別立廟○邾人鄭人伐宋邾主兵故○

子之廟于仲○邾人鄭人伐宋邾主兵故○

無傳強食苗心者為○

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

